

日米の教科書事情

——『国際経済学をつかむ』の刊行にあたって

石川城太

現在、いわゆる近代経済学の基本的内容は、世界的に標準化されている。これは、基本的には欧米で確立された基礎理論を、日本も含め、世界各国が「輸入」してきたことによる。したがって、どこの国の経済学の教科書を見ても、取扱う内容や章立ては、大差ないといえる。とくに、入門レベルでは、アメリカの有名教授が書いたいくつかの教科書が全世界で翻訳され、世界的ベストセラーとなっている。国際経済学もその例外ではない。プリンストン大学のクルーグマン (P. R. Krugman) とカリフォルニア大学バークレー校のオブズフェルド (M.

Obstfeld) 両教授による *International Economics : Theory and Policy* (Addison-Wesley)、ハーバード大学のケイブス (R. E. Caves) とフランクел (J. A. Frankel)、およびロチェスター大学のジョーンズ (R. W. Jones) の三教授による *World Trade and Payments : An Introduction* (Addison-Wesley) がアメリカにおける学部レベルの代表的な教科書であり、日本語にも訳されている。

* * *

取扱う内容は、日米間の教科書で基本的には同じものの、両者の間にはい

くつか顕著な相違が見られる。まず明らかな違いは、分量である。国際経済学は、大きく分けて、モノ・サービス・ヒトの国境を越えた取引や活動を扱う「国際貿易論」とカネの国境を越えた取引を扱う「国際金融論」に分かれる。最近、日本では、国際貿易論と国際金融論を別々の教科書として分ける傾向にある。この背景には、国際貿易論が主にミクロ経済学的アプローチに基づいているのに対し、国際金融論が主にマクロ経済学的アプローチに基づいているという事情がある。また、国際貿易論をもって国際経済学と呼ぶ傾向もでてきている。これに対し、ア

アメリカの学部レベルでは、上記の二冊も含め、それらの二つの分野が一緒になっている教科書がほとんどである。このため、通常、複数の著者によって教科書が書かれている。たとえば、クルーグマンとオブズフェルドは、それぞれ、国際貿易論と国際金融論の大家であり、彼らが書いた教科書の国際貿易のパートをクルーグマンが、国際金融のパートをオブズフェルドが担当している。

二つの分野が一冊の教科書になれば、それだけでも当然分量が多くなるが、さらに、アメリカの教科書は、記述が非常に詳しい。よくいえば、懇切丁寧に書かれており、まさにかゆいところまでしっかり手が届くような記述が多い。また、理解を助け、かつ読者を飽きさせないようなケース・スタディやコラム、さらにはさまざまな練習問題などが、ふんだんにちりばめられている。しかし、悪くいえば、情報

量が多すぎて何が本当のポイントなのかを見失いやすい。また、読み切ることやすべての練習問題を解くことも簡単ではなく、かえって理解が妨げられてしまう可能性も生じる。

* * *

また、容易に察しがつくように、分量が多いということは、値段が高くなることに直結する。とくに、アメリカ国内では、教科書はほとんどハード・カバーであり、非常に値が張る。しかし、アメリカ国外でのみ販売されている国際版は、ペーパー・バックが主流となっており、価格も抑えられているようだ。まさに、経済学の基本的な理論の一つである「価格差別」が実践されている好例といえよう。また、教科書が大変重くて持ち運びに不便であるという問題もある。

そう言えば、自分が大学三年生になってゼミに入り、初めて電話帳のよう

に大きくて重く、かつ、とてつもなく値段の高い英語の教科書を購入せざるをえなくなったとき、その教科書を脇に抱えてキャンパス内を持ち歩いているだけで、何となくとても勉強しているような錯覚に陥った。これは、その教科書を見た(ゼミ以外の)大勢の友人に「ゼミでそんなに勉強しているの」と言わしめたことによる。しかし、大きな勘違いである。ゼミの輪読において自分が報告しなければならない箇所こそ、アンダーラインを引くなどして、必死になって読んだが、それ以外の箇所はほとんど読まなかった。

教科書の価格が高いと、学生たちがそのあおりを食うことになる。そして、当然、学生たちも自衛手段をとるようになる。私がカナダの大学院に留学していたときに驚いたことの一つは、新学年が始まるときに大学のブックストアに教科書の古本の巨大な山がいくつも現れることだった。この光景

時代を紡ぐ 教育論

渡辺重範 時代の奔流に巻き込まれながらも、小さな勇気を奮い起す。本・映画・音楽等のテーマに即して、「愚直」に生きる大切さを語りかける教育論。2100円

ジャーナリストの仕事

原剛 [コーディネーター] 第一線の記者が、自らの体験をもとに、取材動機と方法論を紹介。石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座講義録③ 1890円

ミクロネシア

小さな島々の自立への挑戦
松島泰勝 大國支配からの自治・独立を求めたミクロネシアの人々。観光のイメージを払拭して新しいアジアネーション像を描く。アジア太平洋研究叢書⑥ 3990円

スピリチュアリティ と平和

[平和研究第32号]

日本平和学会編 心の豊かさや現代人が見失った倫理観・公共精神などについて論じ、グローバル化時代の平和を見つめ直す。3360円

ライフサイクル 産業連関分析

中村愼一郎編 産業界階層を含めた最新の産業連関分析を試み、製品のライフサイクルを巡る理論と実践を提示。早大現代政治経済研究所研究叢書⑦ 3990円

早稲田大学出版部

169-0071 東京都新宿区戸塚町1
☎ 03-3203-1551 / 価格は税込
<http://www.waseda-up.co.jp>

はアメリカでも同じである。しかも、値段はその使い古しの教科書を持ち込んだ人が決めていた。もちろん、きれいな方が高く売れるので、転売をもくろむ学生はなるべく教科書を汚さないように使う。教科書に書き込みをするとか、アンダーラインを引くとかはもったいなくてのほかである。中には、まったく使用したことがないように見えるほどきれいなものもあった。値段は、大抵、新品の五割から八割程度だったと思う。

このような教科書の古本市場の出現は、明らかに教科書の売り上げを減ら

すことになる。著者や出版社にとっては実に頭の痛い問題であるが、彼らは、教科書の価格自体を引き上げるといふ対抗手段に加えて、頻繁に改訂することによって古本の価値を下げようとしているようだ。代表的な教科書だと数年に一回は改訂を行っているだろう。頻繁に改訂するので、もちろん大きな改訂はないのだが、それをこと細かにチェックできない学生サイドは、改訂版を買わざるを得ない状況に追い込まれる。確かに、改訂によって、データや事実に関する記述は最新のものが盛り込まれるが、教科書のコアの部

分はほとんど変わるわけがなく、真に有益だと思われる改訂箇所は少ないといえる。

私は、以前、アメリカでベストセラー（そして今や世界でベストセラー）となったある教科書の第一版の翻訳にたずさわったことがあるが、その邦訳が出るころには、第二版がすでに出ていた。そして、第三版をまた翻訳することになったとき、作業をスムーズに進めるために、まず改訂された箇所を見つけようとしたのであるが、これに大変な労力を要した経験がある。表現のちよつとした言い換え・付け足しや

段落の単なる入れ替えなども結構多く見られた。

* * *

さて、最近、私は、初めて国際貿易論の教科書を書きあげた。書きあげたと言っても、ほかに二人の共著者（菊地徹・神戸大学准教授、棕寛・学習院大学准教授）がおり、私が執筆した部分は三人の中で最も少ない。大学に職を得た当時には、将来自分が教科書を執筆するなどとは夢にも思っていなかったが、実に有能な共著者と編集者のお陰で、教科書の企画・執筆が進み、ついに立派な教科書として日の目を見ることになった。うれしいかぎりである。

この教科書は、テキストブックス「つかむ」シリーズの一つで、やや奇抜なタイトルであるが、『国際経済学をつかむ』と命名されている。この教科書では、「比較優位」といった国際

貿易論の基礎理論から「サービス貿易とIT」や「貿易と環境」といった最新かつホットなトピックまで、広範に、かつなるべくわかりやすく解説することを心がけている。ITや環境の問題が国際経済学の教科書レベルで解説されているのは、大きな特長といえよう。

また、多くの国際経済学の教科書が基礎理論の解説やモデルの数式の説明にかなりの紙幅を割いているのと対照的に、基礎理論をさまざまなトピックにどのように応用するのかに主眼を置いて執筆した。たとえば、高校時代にピッチャーとしてもバッターとしても活躍したイチローが、プロ野球選手になって「なぜピッチャーではなくてバッターとなるべきなのか」といったような問題も「比較優位」の考え方をを用いて考察できることなどについても触れている。さらに、国際貿易の制度についても比較的詳しい解説を行っている

る。これによって、国際経済学の初学者でも、モノ・サービス・ヒトの国境を越えた取引や活動に関するさまざまな問題を経済学見地に立って幅広く理解できるようになると期待している。

「つかむ」シリーズは、理解の基礎単位をユニットという短いひとまとまりにおき、確実な理解とステップ的な学習を目指している。すなわち、それぞれのユニットには重要ポイントや確認問題も含まれていて、独立性が強く、ユニットごとにそれぞれのトピックを勉強できるように工夫されている。『国際経済学をつかむ』は、各章2ユニット構成で、11章・22ユニット（二八六ページ）からなっている。ユニット1から順に最後まで読んでいけば、国際貿易論の基礎から最新のトピックまで、そのすべてをスムーズにカバーできる仕組みになっている。経済学部の一・二年生向けの講義において、一回の講義ではほぼ1ユニットずつ

東信堂

シリーズ「未来を拓く人文・社会科学」

シロの新たな道標(各四六・全14巻+1)
日本学術振興会初の研究プロジェクトの成果。錯綜する諸課題解決に有効な人文社会科学の振興をめざす。

① **科学技術ガバナンス**
城山英明編 1890円

② **ボトムアップな人間関係**
心理教育・福祉・職業・社会の現場から
サトウワタツヤ編 1680円

③ **高齢社会を生かす**
老いる人／看取るシステム
清水哲郎編 1890円

④ **紛争現場からの平和構築**
国際刑事司法法の役割と課題
城山英明・石田勇治・遠藤乾編
(同シリーズ別巻) A5・2940円

シリーズ「社会科学のアフクチュアリティ・批評と創造(各四六・並装)」最新刊!

⑤ **社会学のアーナヘ**
21世紀社会を読み解く
友枝健雄・厚東洋編 2310円

⑥ **公共政策の社会学**
社会的現象との格闘
武川正吾・三重野幸編 2100円

貨幣の社会学への招待
経済社会学の招待
森元孝著 貨幣循環プロセスから
見直す戦後日本社会。四六・1880円

プラットホーム環境教育
石川聡子編 探求・参加・協働—実践的環境教育の確立へ。A5・2520円

大学改革 その先を読む
寺崎昌男 現代の大学の抱える問題点への現場からの着眼・指針。教職員・理事・学生必読。四六・1365円

理工系学生の日本語表現
—大学教育の新たな実践—
大学における初年次教育
森下穂・鴨川明子編 A5・1260円

ティーチング・ポートフォリオ
授業改善の秘訣
土持ゲアリー 法— A5・2100円

(価格は税込定価表示です)
〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
☎03-3818-5521 FAX03-3818-5514
http://www.toshindo-pub.com

進んでいくことを念頭に置いており、ちょうど四単位の講義に適した分量となっている。また、講義を行う際に、学生が興味を持ってくれるかどうかは「出だしが肝心」であるが、国際貿易論がどのような科目かについて紹介しているユニット0では、いくつかの面白いエピソードを交えて、興味を引く努力をしたつもりである。

既述のごとく、アメリカの教科書と比較すると、もちろん『国際経済学をつかむ』の分量はかなり少なめである。しかし、国際経済学の中の国際貿易論に絞って、数式よりも図表を多用

しながらそのエッセンスを簡潔明快に示すことで、確実な理解を可能にしているといえよう。ユニットの独立性が高いこともあり、いくつかのユニットのみを教養の講義で使うことも十分可能である。また、価格も大変リーズナブルだと思う。同僚に価格を聞かれて答えたところ、「なぜそんなに安いのか?」と驚かれた。この価格であれば、学生にも教科書を是非購入するよう、躊躇なく薦めることができると思う。将来、価格が高いから古本屋に出回るのではなく、よい教科書だから古本としても価値があるようになって欲

しいと願う次第である。

(いしかわ・じょうた)

— 一橋大学大学院経済学研究科教授 —

『国際経済学をつかむ』有斐閣刊

石川城大・菊池 徹・椋 寛 [著]

● 好評発売中

A 5判、二六六頁、二二〇五円(税込)